

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501169
法人名	医療法人親仁会
事業所名	グループホームひまわり
所在地	福岡県大牟田市新地町6-14
自己評価作成日	平成30年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成30年3月2日	評価結果確定日	平成30年4月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>本人の想いを尊重し家族のように支え合い安心して住み続けられるように支援しています。地域に対して、認知症の啓発及び地域住民と共同の地域づくりを目指しています。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して17年目を迎える歴史ある事業所は、併設される中友診療所と共に新築移転されている。職員の意見も反映しながら、居場所や動線の確保等、各所に工夫が施された共用空間となっている。市のライフサポート研究会の活動等を通じて、認知症啓発活動やネットワークの構築等に参画しており、積極的に地域や関係者との連携を図っている。外部研修や法人研修の参加機会も多く、認知症ケアに向き合うべく日々の研鑽を重ねている。日常的な外出の機会も多く、四季の変化を肌で感じながら、散歩や買い物等に出かけ、地域との交流機会ともなっている。併設診療所及び母体医療機関との密な連携を図り、24時間の対応が可能であることから、本人、家族、職員にとっての安心感となっている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、入居者の想いを尊重しながら最後まで生活していただけるような支援を心がけています。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた独自の理念を掲げている。職員会議等にて、本人本位の検討に向けた職員個々の気づき力の向上を促し、理念に沿った実践を再確認している。また、センター方式も活用しながら、本人の「想い」の把握に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に入居者と買い物に出たり地域敬老会、盆踊りへの参加を実施しています。	公民館にて地域の独居高齢者の方を対象とする食事会を開催する際に協力を行ったり、家族会開催時の食事提供に地域ボランティアの方の協力を得ている。また、認知症SOSネットワーク模擬訓練実施時には事務局を務めている。管理者は積極的に地域に出向き、認知症サポーター養成講座や認知症絵本教室の開催にも参画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症SOS模擬訓練や認知症サポーター養成講座の開催。地域小中学校への認知症絵本教室への参加を実施しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「ひまわりたより」を通して、日常の様子を報告しています。行政やあんしん介護相談員の方から貴重な意見をいただいています。	運営推進会議は、家族代表、市健康長寿支援課、地域包括支援センター、あんしん介護相談員、隣接診療所等より出席を得て、2ヶ月に1回開催されている。経営状況や運営状況、研修、行事等について報告を行い、地域情報を共有する機会としても活用されている。今後は、近隣事業所との相互参加も予定されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での報告の他、気になることはその都度相談しています。	運営推進会議には、市担当者及び地域包括支援センター職員の出席を得ている。また、市のライフサポート研究会の活動を通じて、認知症SOSネットワーク模擬訓練実施やコーディネーター養成研修、絵本教室の開催等、日ごろから顔の見える関係の中で連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の玄関施錠以外は一切致しておりません。	日中、玄関の施錠は行われていない。入居者個人の理解に努め、認知症ケアに関する学習の機会も多く、本人本位の暮らしの継続に向けた職員個々の気づき力や対応力、意識の向上に努めている。また、主治医との連携を密にし、医療面からのアプローチやアドバイスを受けながら、日常の関わりを振り返る機会を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	年に1回の学習を実施。気になるところは、虐待に発展しないように、その都度指導しています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中には、日常生活自立支援事業、成年後継人を利用されている方もいるので、定期的に関わらせていただいています。	現在、成年後見制度や日常生活自立支援事業を活用している方もおり、必要性を検討し活用に向けた支援を行った実績もある。支援の過程を通じて学ぶ場面も多く、資料を整備し、必要時には情報提供が行えるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	快く納得していただけるよう、何度も話し合いを重ね十分な説明を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しており、定期的に管理者が確認しています。意見、要望があった時はその都度話し合い改善しています。	家族の面会時に管理者や介護スタッフより積極的に話がなされ意向の確認がなされている。家族会も年に1回開催され、地域ボランティアの協力を得ながら食事会を行ったり、家族同士の意見交換の場として活用されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議での意見集約や協議の他、個別に話す機会を設けています。	定期的な職員会議の実施にあたり、時間帯の変更等を工夫しながら、内容の充実に取り組んでいる。結果として、気づきの共有や密な意見交換へとつながり、風通しの良い職場環境づくりに結び付けている。業務改善についても、利用者本位の視点を確保するよう周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	学習会や研修への参加を積極的に行い、知識の向上に努めています。ライセンス取得等目指す事で意欲向上、自己の成長に努めています。又研修レポート等にて成果を称える様にし、意欲が高まる様に努めています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時は男女を問わず、経験やライセンス取得は問題にせず、意欲を重視しています。年2回程度の面接を行い自己実現へのサポートに努めています。	職員の採用にあたり、年齢や性別等を理由として排除しないようにしている。希望休の取得や勤務時間帯等に個別の配慮を行い、働きやすい環境づくりに努めている。また、外部研修や法人研修の機会も多く、資格取得も含め個々のスキルアップをサポートしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	虐待の学習と合わせ、年に1回の学習を実施。気になるところは、その都度指導しています。	定期的に研修を実施しており、また、認知症ケアに関する学習の機会も多く、人権意識の向上に努めている。管理者は、社会的な事例や日常の中での気付いた点を職員に投げかけ、共に考える機会を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修の案内と機会の確保をしています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他法人介護事業所との地域活動を通してネットワークづくりをしています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の契約時は元より、施設サービス計画書(1)に於いて、本人様のご希望及び不安等無いか。又、介護保険更新時に於いて等、定期的に御意向を伺う様にしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人様同様、施設サービス計画書(1)に於いてや、介護保険更新時は元より、御面会時にも随時、意向を伺う様に努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとってグループホームが最善なのか？他のサービスを使いながら在宅の生活が良いのではないかと等、検討しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般、一緒にできることは極力一緒に行っています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あえて相談することで、家族にしかできないことを引き出したり、定期的な面会を促し、外出してもらうことで共に支えている実感を持っていただいています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御自宅の仏壇へのお参りや、居室にてお参りできる事環境作りを行い、安らいだり、安心される様に支援しています。通い慣れた御家族に協力して頂き、通い慣れた病院への、外来通院を継続して頂いたりしています。	家族との連携を図りながら自宅で過ごしたり、地域の老舗デパートの跡地を訪ね、昔話に花を咲かせることもある。地域の伝統行事である大蛇祭りや三池初市の見物にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話が合う方を近くの席にセッティングしたり 日当たりの良いコーナーに、ソファを準備したりする事で、皆さんが集まって談笑される環境づくりに努めています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも相談に来られるご家族がいらっしゃいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活習慣やその人らしい暮らし方を優先し、居室でテレビや音楽鑑賞される事で、寛いだ生活を送れるように支援しています。困難な場合は御家族の情報を基に、その人らしい暮らしを支援しています	各担当者を中心として、センター方式を活用した情報収集が行われている。平素の関わりの中で聴き取られた新たな情報は、個人記録や業務日誌等に記載され、職員間で共有されている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント以降も本人の話や家族からの話をもとに努力しています。センター方式を活用しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中で、リアルタイムの状況把握も大切にしています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・スタッフ同席での話し合いは、まだまだ少ないですが、ケアマネが中心となり、それぞれと話をしながら作成しています。	定期的なカンファレンスやモニタリング、担当者会議の開催を通じて、職員の意見を収集し、現状に即した介護計画となるよう努めている。また、身体的及びADLの視点のみならず、本人の意向や生活状況も含めた検討に努めている。	入居者個別の主観的情報や、計画に基づいた実践状況について記録を行うことで、根拠に基づいたモニタリング・評価につながるように期待します。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の朝礼や職場会議。また、必要時その都度行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	子供民生委員の受け入れ		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会・民生委員やあんしん介護相談員との繋がりが。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を受診できるように支援しています。	家族との連携により、これまでのかかりつけ医への受診を支援している。また、隣接する医療機関も含め、母体となる医療機関との密な連携が図られ、24時間体制での対応が可能となっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	中友診療所や訪問看護との連携をとることができています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時付き添い日頃の状態の報告を行っています。入院された際は、度々入院先を訪問し、早期に退院されるように、病棟との情報交換や面談を行い、退院後の状態に応じた環境づくりや準備を行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り介護」について、まだその状況ではなくても、入居時・契約更新時に家族へ説明しています。職員は「看取り介護」について学び安楽な介護の提供に努める事が出来るように話し合い等を行っています。	入居時に事業所としての指針を説明し、状態変化があった際はその変化について担当医を含めて共有し、希望を確認しながら看取りを支援している。看取りの研修も定期に実施しているとともに、担当医と綿密なやり取りをしながら、意思決定できるような医療ニーズについて具体的な方針を示し、本人・家族の意向を尊重している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勤務している看護職員に日常的に指導を受けています。また、中友診療所の救急蘇生講習を年1回受講しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防避難訓練を実施しています。地域との協力体制を強化していく必要があります。	地域のネットワークの緊急連絡網も活用しながら、地域住民や消防団との連携を図り、避難訓練を実施している。利用者や地域住民より、昔の水害について情報提供を受け、近隣の公営住宅住民への協力依頼も行われている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時は、さりげなく声掛けを行うなど、精神的に屈辱的な思いをあたえないよう常に意識する様に努めています。気になることがあれば、その都度管理者が指導しています。	理念に基づき『想い』や『尊重』に重きを置いている。意思表示が難しい入居者については常に推し測りながら、対応している。個人としての関わりに努め、居場所の確保や時間の流れ等、個別支援が行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添いながら支援することで、思いを自然に表出出来る環境づくりをしています。さりげない会話の中で、感じた事、発せられた事を記録に残し職員間での情報交換やケアプランへの本人様の想いにより近づける様に努めています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先に成らない様、お互いに職員間で意識する様にしています。入浴時等、本人さんの思いを優先し時間の配分を行ったりしています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗顔、・整髪支援や洋服等の買物と一緒にいき、御自分で選んで頂く等ご希望に添える支援を行っています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考えたり 食材の準備やテーブル拭き、お盆拭き等その 方の力の発揮を支援しています。安全な範囲で包丁も使用していただいています。	嗜好の反映や買い物同行、包丁を持ち調理に参加される方もおり、個々の希望や力を反映しながら、事業所にて調理を行っている。午前・午後とおやつ時間もあり、個別～少人数での外食にも出かけている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個人に合わせ、柔らめに準備したりしています。水分は定期的に準促し、居室でも飲水出来る様にしています。定期的に管理栄養士に助言をいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ・ミラーリング・介助と各々に合わせた支援を行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンとADLの把握を行い、おむつの使用を減らしています。	個別の排泄状況や排泄動作等の把握に努め、職員間での共有・検討や法人内専門職との連携も図りながら、トイレでの排泄や自立に向けた支援につなげている。散歩や回廊式の共用空間を活用し、下肢機能の維持・活用にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	勤務看護職員と中友診療所の看護師のアドバイスをもとに取り組んでいます。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めています、無理強いせず、希望があれば変更したり合わせるようにしています。	木曜日以外、入浴の準備があり、週に3回程度の入浴を支援している。希望があれば毎日の入浴にも対応している。楽しく入浴できるように入浴剤を用いたり、基本は個室であるが、仲の良い方同士の入浴等にも柔軟に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間は、各々の希望を尊重しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の変更があってもすぐにわかるように、「お薬の説明書」を業務日誌に挟んでいます。また、申し送りでも伝えています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々に合わせた役割の提供や趣味を施設内でできるよう支援しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩や買い物。桜や梅・こいのぼり見学等、その時々旬なイベントを実施しています。	四季折々の気候を五感で感じながら、近隣の公園等への散歩や日光浴が日常的に行われている。地域の伝統行事や居住地されていた地域の祭りにも参加している。地域行事(盆踊り・敬老会)への参加や個別～少人数の夕食、買い物等、外出の機会が多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者同士のトラブルが絶えなかったため、現在は、買い物時のみ持っています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はおられません、希望があれば支援していきます。電話は行っています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度は、定期的にチェックし適正を保つようにしています。不快や混乱をまねくような音、光、色は使用していません。	事業所は新築移転し、木の質感が多用された温かみのある生活空間となっている。採光や生活導線等、各所に工夫が施され、廊下にはベンチが効果的に設置されている。過度な装飾は施さず、落ち着いた生活空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	穏やかな雰囲気を作り、そのようになるよう促しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、入居中、その都度本人・ご家族に確認をとっています。	ベット、エアコン、クローゼットが設備されている。その他は自由に持ち込みができるようになっている。中には好きな芸能人の切り抜きや写真を掲示したり、CDを自室で聞く事を楽しみにしている方もおられる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者に応じて行っています。		